身体的拘束最小化に関する方針・取組について

身体的拘束最小化宣言

日野病院は、患者さん一人ひとりの尊厳と人権を尊重し、その人らしく安心して療養生活を送っていただけるよう、身体的拘束を原則として行わないことを基本方針とします。

身体的拘束は、患者さんの身体的・精神的な苦痛や活動性の低下、生活機能の低下等につながる可能性があります。そのため、身体的拘束を安易に選択することなく、患者さんの状態や生活背景を多職種で把握し、環境の工夫や見守り、ケアの方法等、身体的拘束を行わないための代替手段を検討しながら、安全と尊厳の両立を目指します。

やむを得ず身体的拘束を行う必要がある場合においても、その必要性を慎重に検討し、必要最小限の範囲・時間にとどめるとともに、早期の解除に向けて継続的に検討します。

また、患者さんやご家族に対して、身体的拘束を行うことによるリスクだけでなく、身体的拘束を行わないことによるリスクについても丁寧に説明し、意向を尊重した医療・ケアの提供に努めます。

令和８年９月１日
日野病院　病院長　　孝田　雅彦

1. 基本方針

- **身体的拘束を原則として行わない**
  身体的拘束は患者さんの尊厳を損なう可能性があることを認識し、原則行わないことを基本とします。
- **身体的拘束に頼らないケアを検討する**
  患者さんの状態や生活背景を把握し、環境調整、見守り、ケア方法の工夫、リハビリテーション等、身体的拘束を回避するための方法を多職種で検討します。
- **やむを得ない場合も最小限とする**
  生命または身体の安全を確保するため、やむを得ず身体的拘束を行う場合は、その必要性を多職種で検討し、必要最小限の方法・時間にとどめます。
- **早期解除を目指す**
  実施した場合は継続して必要性を評価し、解除できる方法を検討します。必要性がなくなった場合には速やかに解除します。
- **患者さん・ご家族の意向を尊重する**
  必要性や身体的拘束を行わない場合のリスク等について丁寧に説明し、意向を十分に確認します。

2. 身体的拘束を行う場合の考え方

身体的拘束は、原則として行いません。ただし、患者さんの生命または身体の安全を確保するため、他に代替する方法がなく、やむを得ないと判断される場合には、以下の観点から慎重に検討します。

- **切迫性**
  身体的拘束を行わないことで、患者さん本人または他の患者さん等の生命・身体に重大な危険が生じる可能性が高いこと。
- **非代替性**
  身体的拘束以外に、危険を回避するための方法がないこと。
- **一時性**
  身体的拘束は一時的な対応に限り、必要な期間を超えて継続しないこと。

3. 身体的拘束最小化に向けた当院の取組

- **身体的拘束最小化チームによる活動**
  身体的拘束の実施状況や解除に向けた検討状況を把握し、継続的に必要性を評価します。
- **身体的拘束に使用する用具の一元管理**
  使用する用具を一元的に管理し、使用状況を把握するとともに、安易な使用を防止します。
- **多職種による検討**
  医師、看護師、リハビリテーション職員等が連携し、回避・解除方法を検討します。
- **代替手段の活用**
  見守り、環境調整、離床支援、リハビリテーション、福祉用具・見守り機器等、患者さんの状態に応じた代替手段を検討します。
- **職員研修**
  身体的拘束の最小化に関する院内研修を年 2 回以上実施し、身体的拘束の影響、行わないためのケア、代替手段等について理解を深めます。
- **委員会等による継続的な検討**
  取組内容を定期的に評価し、身体的拘束の最小化に向けた改善を行います。

4. 身体的拘束の実施状況

当院では、身体的拘束の実施状況を定期的に把握し、その結果を院内で共有するとともに、身体的拘束のさらなる最小化に向けた取組に活用します。

年月	身体的拘束実施率			
	急性期一般	2F 地域包括	3F 地域包括	全体
令和 8 年 7 月	7.0%	0.0%	2.9%	4.1%
令和 8 年 8 月	4.7%	0.0%	0.4%	2.0%
令和 8 年 9 月	1.6%	0.9%	0.0%	0.7%
令和 8 年 10 月	1.4%	2.3%	2.0%	1.8%
令和 8 年 11 月	%	%	%	%
令和 8 年 12 月	%	%	%	%
令和 9 年 1 月	%	%	%	%
令和 9 年 2 月	%	%	%	%
令和 9 年 3 月	%	%	%	%

※身体的拘束実施率は、施設基準に基づき、対象となる入院料の算定日数に占める身体的拘束を実施した日数の割合として算出します。

5. 患者さん・ご家族へのお願い

身体的拘束の最小化は、病院職員だけで取り組むものではありません。患者さんご本人の思いや、これまでの生活習慣、ご家族からいただく情報は、身体的拘束を行わないケアを検討するうえで大切な情報となります。

ご本人やご家族の不安やご希望をお聞かせいただきながら、安全と尊厳の両立を目指した医療・ケアを行ってまいります。

日野病院は、患者さんの尊厳を守り、安心して療養していただける病院を目指して、身体的拘束の最小化に病院全体で取り組みます。